

「農業DX デジタル実装セミナー」を開催

「デジタル実装を支援した側と導入した側の双方の体験を聞く」

- 四国総合通信局と四国情報通信懇談会 地域デジタル実装部会は、令和7年2月12日(水)に「**農業DX デジタル実装セミナー**」を高知市内（ハイブリッド）で開催し、農業分野におけるIoPを活用した取組の中心的な役割を担う方と、支援を受けて自身でもデジタル実装に取り組んで成果を上げている農業従事者の方々を講師にお迎えし、双方の立場から体験談を語っていただきました。
- 農業者、自治体、企業、経済団体、研究所、大学、国の機関等から、**現地・オンライン 計約80名**の参加がありました。

■ 事例紹介①「高知県IoPプロジェクトによる農業の効率化・高収益化の取組」

高知大学 教授 IoP共創センター 研究開発部門 部門長 岩尾 忠重 氏 から、高知県の農業の実態や課題、植物状態と環境の影響を考慮した要因分析の必要性についてご説明いただきました。

高知県農業技術センター 農業情報研究室 五藤 雄大 氏 から、農業者・技術者・支援者が連携して行われている「IoPクラウドSAWACHI」を活用した取組についてご紹介いただきました。

■ 事例紹介②「IoTを活用した収益性の高い周年イチゴ栽培で地域を活性化する取組」

有限会社 ミカモフレック 取締役社長 関 成章 氏 から、持続的な周年イチゴ生産のためのスマート農業の取組とその意義についてご紹介いただきました。

三木農園 三木 敬治 氏 から、他業種から就農された実体験に基づく、新規就農者が抱える課題とデジタル技術活用による解決方法についてご説明いただきました。

■ 施策説明①「スマート農業技術活用促進総合対策及び農業農村の情報通信環境の整備について」

農林水産省 中国四国農政局 から、スマート農業技術の活用を促進する施策や、補助事業についてご説明いただきました。



■ 施策説明②「地域社会DX推進パッケージ事業について」

総務省 四国総合通信局 から、地域社会DX推進パッケージ事業の概要と実証事例についてご紹介いたしました。



■ パネルディスカッション

高知工科大学 情報学群 教授 福本 昌弘 氏 をコーディネータに、DXによって解決したい課題を事前に定義することの重要性や、農業DXのきっかけと課題、DXに必要なこと等について、参加者からのご質問・ご意見も交えながら、登壇者全員でディスカッションを行いました。



<パネルディスカッションの様子>

<会場の様子>



■ 参加者の声（アンケートより）

- ・農家の方の生の意見を聞ける機会が少ないため、とても参考になった。
- ・登壇した方々の熱量や物事に対する物の見方がよく、拝聴してとても勉強になった。これからもこのようなセミナーがあれば参加させていただきたい。
- ・お話を聞きながら、地域の農業従事者の高齢化や後継者不足を鑑みると、小規模な営農者でも規模の拡大がなければ、持続性の維持が難しいのではないかと感じた。地域の農業の在り方や目指す姿などを議論することも必要なのかもしれない。地元の企業・農家さんの熱心なお話が聞け、貴重な機会となった。